令和4年度 学校評価報告書

丹波篠山市立西紀北小学校

校長 堀 香 織

1 学校教育目標等

ふるさとに夢や誇りを持ち 未来の創り手となる北っ子の育成
～へき地・小規模・複式学級の特性を生かした学校～

2 今年度の重点目標

- 「確かな学力」の育成 基礎基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力の向上
- 「豊かな心」の育成 自他の命を大切にする心や規範意識の醸成
- 「健やかな体」の育成 たくましく生きるための体力・気力・運動能力の向上
- 「ふるさと草山」が大好きで、地域に貢献しようとする意欲の育成
地域とともにある学校づくりと伝統文化を生かしたふるさと教育の推進

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	基礎・基本の定着	B	勉強がわかると回答した児童は86%である。また、授業がわかりやすいと回答した児童は90%である。実態を把握し個に応じた学習の充実に努めた結果と思われる。今後も児童が学ぶ喜びを体感できるように指導に努めていく。
	学習形態・指導方法の工夫改善	B	児童は北っ子式算数の取組により、自分の意見を発表したり友だちの意見を聞く姿勢が身についている。さらに学びを深めるためには教師のしかけ(力量)が必要であり、校内研修等で職員同士の学び合いを今後も進めていきたい。
生徒指導	基本的生活習慣の定着	B	あいさつは90%の児童がよくできていると回答した。基本的生活習慣も概ね良好であるが、唯一の課題がゲームの時間が長く就寝時刻が遅い児童がいることである。家庭での約束を決めてもそれが守れない状況になっているので、児童保護者に対してマンネリではない取組等改善を図る必要がある。
	児童理解と組織的な対応 外部関係機関との連携	A	家庭の不安定さが児童に影響を及ぼしている事案が多く、家庭児童相談室と連携を図り保護者の支援を含めて全教職員で関わる等柔軟な支援体制を心がけた。また、問題行動については未然指導、即対応を組織的に行った。
地域とともにある学校づくり	学校運営協議会・保護者との連携	A	コロナ禍においても従前のような活動ができるよう模索できた。北っ子広場では学校運営協議会により「ふれあい音楽会」を企画いただいた。また、ふるさと教育の体験活動の橋渡しやゲストティーチャーの紹介をお世話になった。
	地域人材の活用とふるさと教育	A	どの学年も地域の教育資源を生かした取組がしっかりできている。児童はたくさんの草山の魅力を発見することができた。今後は新たな分野への開拓や人材の発掘等、アンテナを高くして地域に根ざした教育活動を展開していく。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・基礎基本の定着に向けて「北っ子検定」等一人一人の子供に応じた取組がなされていることは評価できる。進んで発表するとか分からないことを聞くなどの、子どもの自己評価が上がればなお良くなると思う。
- ・本年度は学校運営協議会の委員も「ふるさと教育」の講師で教育活動に参加することができた。ふるさとに興味を持ち、子どもたちが生き生きと学習するようすを見ることができたことは良かった。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・コロナ禍においても、できる限り従来とおりの教育活動や学校行事ができて良かったと思う。子供たちの様子が地域に見えることが大事だと思う。地域が学校に協力することは当たり前なので、学校側から地域に対して要望があれば遠慮なく言ってほしい。
- ・教師の働き方改革が今世間の話題になっている。だいぶ長く学校の電気がついていることがあるので、ワークライフバランスを大切にしていきたい。
- ・学校運営協議会で主催した「ふれあい音楽会」が好評で良かった。子供たちもノリノリで、大人も楽しめたようで良かった。今後も学校と保護者、地域を繋ぐ催しを企画していきたい。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・我が子の様子を見てみると、家庭学習をよく頑張っていると思う。算数の宿題がわからないというので家族総出で考えたが、自分の時代と問われていることの質が変わっていることに気づいた。問題を読み解く力が必要だと感じた。子供たちにわかるまで指導する先生方のご苦労がよくわかった。 ・読解力を身につけるには、小さい頃から本をたくさん読むことが必要だと思う。読書より楽しいことが増えた今の時代に、読書の習慣づけは難しくなっているが保護者に対してそのあたりの啓発が必要ではないか。（親が本を読まなかったら、子が読まないのは当たり前だと思う。） ・発表することが大事ということはわかるが、それがしんどい子もいる。それぞれの個性を認めることも大切だと思う。 ・今の時代、発表をする力をつけておいて損をすることはない。学校の指導で社会で通用する力を身につけさせることも、また大切である。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でのゲーム等情報機器の使い方のルールを守れているかどうかについての子と親との認識の違いが気になる。本年度育友会の人権講演でも「SNSの使い方」について行ったが、親も真剣に子の状況について目を光らせるべきである。 ・SNSの使用については今日的な課題であるので、規則正しい生活習慣を含め、子の指導、親の啓発を継続することが必要である。 ・講演を行うなら、講師の選定が重要である。先日の市同教のPTA部会の講師はとても良かった。このような方に来ていただき、親子ともに心に響くようなお話をさせていただくことを望む。
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの地域に根ざした教育活動を通じて、子供たちのふるさと意識を高められるようにしていきたい。また、それが推進されるためには、地域としても協力を惜しまないので言ってほしい。 ・コロナが5類になると、地域を巻き込んだの行事が復活していくと思う。子どもの様子を見るだけでも元気が出るお年寄りが多いので、無理のない範囲で計画・実施してほしい。